

『環』の公共事業構想ガイドライン評価シート

作成年月日	平成21年12月1日
作成部署	建設交通部 都市計画課

事業名	木津川右岸運動公園（補助）	地区名	城陽市
概算事業費	160億円	事業期間	平成7年度～平成25年度
事業概要	本公園は、城陽市の市街地の東端部に位置し、ほぼ全域が城陽山砂利採取跡地であり、平成16年3月にまとめられた「木津川右岸運動公園（仮称）整備計画検討委員会の提言」を受け、公園づくりの方向性を「自然再生」、「府民参画」とし、多くの府民に愛される公園として整備している。（面積 29.5ha）		
目指すべき環境像	本公園が位置する城陽市東部丘陵地は、高度経済成長期の近畿圏における砂利供給の中心を担ってきた結果、400ヘクタール以上におよぶ山砂利採取跡地が残され、自然環境や景観の荒廃が問題となっている。 本公園事業は、この荒廃した跡地において緑豊かな自然を再生することを目的としている。		
関連する公共事業	新名神高速道路、城陽市道3001号線、3185号線		

	評価項目		施工地の環境特性と目標	環境配慮・環境創造のための措置内容	環境評価
	主要な評価の視点	選定要否			
地球環境・自然環境	地球温暖化(CO <sub>2</sub> 排出量等)	○	本公園周辺は山砂利採取跡地の荒廃した土地であるため、本事業により、緑豊かな自然の生態系を復活させる。	公園内に森のエリアを設置し、地元の樹種を植える。多目的池周辺は丸太や自然石など自然系の護岸で整備し、景観にも配慮している。	4
	地形・地質	○			4
	物質循環（土砂移動）				
	野生生物・絶滅危惧種				
	生態系	○			4
	その他				
生活環境	ユニバーサルデザイン	○	本公園についても高齢者や障害者など社会的弱者に配慮した施設整備が必要である。 また、本公園周辺は砂利採取後、公共残土の処分を受け入れており、土壌は水はけが悪く植物が育つには厳しい状況である。	平成18年のバリアフリー新法に基づき、特定の公園施設（駐車場、トイレ、園路など）については基本的にバリアフリー化を図ることとする。 また荒れた土壌は植生が可能なように改良していく。	4
	水環境・水循環				
	大気環境				
	土壌・地盤環境	○			4
	騒音・振動				
	廃棄物・リサイクル				
	化学物質・粉じん等				
	電磁波・電波・日照				
	その他				
地域個性・文化環境	景観	○	本事業は山砂利採取跡地の崖地や谷地形など特異な地形を活かして特色ある公園づくりを目指している。 整備から管理運営まで府民参画により府民が育てる公園としての方向性を定めている。	地元にもともとあった植生を復活させるようにするなど、山砂利採取跡地の自然再生を土台にして、地域の歴史や文化を踏まえた里山の復元や、特色のある森づくりなど緑豊かな公園を整備する。 また、森づくりグループを立ち上げ、森づくりに関する植樹やPR活動などを展開している。	4
	里山の保全	○			4
	地域の文化資産				
	伝統的行祭事				
	地域住民との協働	○			5
	その他				